

第5学年 社会科学習指導案

は組 男子16名 女子17名 計33名

指導者 上江洲洋志

1 小単元 高い土地に住む人々の暮らし

2 小単元について

(1) 単元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに、国土の地形の概要を調べることを通して、我が国の国土は、山がちで平野が少なく、海に囲まれた大小の島で構成されていることや、火山が多いという特色を捉えてきている。このような学習をしてきている子どもたちは、地形条件から見て特色ある地域や、そこに住む人々の暮らしに関心をもち始めている。

そこで、本小単元では、地形をはじめとする自然条件に着目して事実を比較したり、自然条件と人々の暮らしの様子とを関連付けたりしながら追究する活動を通して、我が国には、地形条件から見て特色ある地域があり、そこに住む人々は、地形をはじめとする自然環境に適応しながら暮らしていることを捉えさせようとするものである。また、地形条件に特色がある地域や人々の暮らしに関心をもち、地図や写真などの具体的な資料を活用して調べるとともに、我が国の国土の自然環境の特色や国民の暮らしとの関連について考える力や、それを適切に表現する力を高めようとするものである。

このような学習は、我が国の気候の概要や特色、気候条件から見て特色ある地域とそこに住む人々の暮らしとの関連について追究する学習へと発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

我が国の国土には、北海道から九州にかけて、中央に背骨のように連なる山脈があり、国土の4分の3が山地で、平地は少ない。このような国土の中で、地形の様子には、場所によって様々な違いがある。長野県は、本州の中部に位置し、日本アルプスや八ヶ岳に代表される山地と、山地の間に複数の盆地が存在するといった地形の特色がある。その中で、川上村や南牧村は、標高約1200mから約1300mの八ヶ岳高原と呼ばれる八ヶ岳の裾野に位置する村である。人々は広い土地を開墾、整備し、標高の高さに起因する夏でも冷涼な気候を利用して、夏の暑さに弱いレタスをはじめとする野菜を生産し、東京や名古屋といった大都市をはじめとする全国各地に流通させてきた。

そこで、ここでは、長野県川上村や南牧村の地形をはじめとする自然条件を生かした夏場のレタスの生産を取り上げる。その際、夏場のレタスの生産が盛んな理由を、地形をはじめとする自然条件や生産にかかる費用、消費地との位置関係に着目させて社会的事象を捉えさせるとともに、ひとびとの暮らしのようすと関連付けさせていくことが大切である。

そのために、まず、長野県川上村や南牧村付近の写真や地図を基に、地形の特色の概要を捉えさせるとともに、これまで学習してきた鹿児島県内の特色ある地域の様子と比較させながら、「高い土地である川上村や南牧村の産業には、どのような特色があるのだろうか。」という問題意識をもたせ、学習問題を設定させる。次に、一人一人の予想を基に、追究の視点や方法を具体化させて、「長野県川上村、南牧村でさかんな産業」「さかんに行われている理由」「さかんにするための工夫や努力」の観点から、地図や絵図、写真資料などを活用して調べさせ、グループや全体で、話し合わせる。そして、追究の結果分かった長野県川上村や南牧村の地形をはじめとする自然条件の特色や、特色に合わせた産業の工夫について新聞にまとめさせる。

これらの学習は、我が国の国土に対する愛情を育むとともに、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力やそれを適切に表現する力を高めることになる。また、社会的事象を人々の相互関係、位置や空間的広がりに着目して捉え、事象同士を比較・分類したり、国民生活と関連付けたりする、社会的事象の見方・考え方の成長につながる。さらに、このような学習を積み重ねることで、地域社会や国家の一員としての自覚をもち、他者と協働しながら、よりよい社会の実現

に向けて多面的・多角的に考えたり、自分のかかわり方を判断したりできる人を育むことになる。

(3) 子どもの実態(調査人数 32 人、質問紙法、重複回答、主な項のみ記述)

項目 1	長野県川上村、南牧村について調べたいこと ※複数回答
	自然(24) 産業(21) 暮らし(18) 交通(6)
項目 2	長野県川上村、南牧村について知っていること※複数回答
	県の位置(24) 気候(16) 地形(15) 農業(14) 無回答(9)
項目 3	長野県川上村、南牧村の農業の特色
	高原野菜：知っている(8)、知らない(24)
	盛んな理由：高所、冷涼(8)、その他(5) 無回答(19)
項目 4	資料活用の技能について
(1)	地図 位置関係(29) 高さ(26) 土地利用(31)
(2)	グラフ 表題(31) 最大(小)(32) 変化(20)
(3)	写真 作業内容(32) 服装(31) 周囲(25)
項目 5	社会的な思考・判断・表現について(主に思考)
(1)	比較 差異点(30) 類似点(27)
(2)	関連付け(20)
(3)	総合(17)
項目 6	追究の視点と方法
(1)	視点(17) 無回答(15)
(2)	方法(16) 追究手段(4) 無回答(12)

この学級の子どもたちの、長野県川上村や南牧村の地形の特色及び人々の暮らしについての見方や考え方は次のとおりである。小単元の学習で調べていきたいことについては、自然や産業に関心をもつ子が多い(項目 1)。これは、これまでの学習の中で、我が国には様々な地形に特色がある地域があることや、県内では地域の特色を生かした町づくりが各地で行われていることを捉えてきているからであると考えられる。次に、長野県の位置を知っている子どもは多いものの、川上村や南牧村の位置や地形、気候の特色や、盛んな産業とその理由については知らない子どもが多い(項目 2、3)。これは、これまでの生活経験で長野県を実際に訪れたり、学んだりする機会が少ないから

であると考えられる。資料活用の技能については、地図や写真、グラフ、表に表されていることを、自分なりの観点をもって読み取ることができる(項目 4)。また、資料に表されている事柄同士を比較し、差異点や類似点を明らかにすることはできるが、関連付けて考えたり、総合したりすることはできない。さらに、社会的現象の特色や意味、相互の関連を追究する際の視点や方法について、身に付いている子どもは少ない。これらは、自然に特色ある地域におけるまちづくりについて、特色とまちづくりにおける人々の取組と関連付けながら追究する経験はしてきているが、その方法について振り返ったり、よさを実感したりすることができていないからであると考えられる(項目 5、6)。

(4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえ、指導にあたっては、次のようなことに留意したい。

地形をはじめとする自然条件に特色ある地域の人々が、自然条件に適応しながら生活していることを具体的に捉えさせるために、長野県川上村や南牧村における夏場のレタス生産を取り上げる。その際、資料から調べた事実を基に自然条件や消費地との位置関係といった視点で、他の地域と比較したり、生産にかかる費用と関連付けたりしながら追究させていく。なお、社会的な見方・考え方を能動的に働かせることができるようにするために、追究の見通しをもつ際に、追究の視点や方法を話し合う場を設定したり、追究の振り返りの際に、その価値を味わわせる場を設定したりする。

ア まず、長野県川上村や南牧村の地形の様子や土地利用の様子について、写真や地図といった資料を基に調べる活動を設定する。その際、これまでに学習してきた鹿児島県内の特色ある地域との違いを問いながら、「大浪の池と同じくらい高い場所にある、長野県川上村や南牧村の産業には、どのような特色があるのだろうか。」という問題意識をもたせ、自然や産業の特色について追究したいという意欲を高めさせる。そして、子ども一人一人の予想を表出させながら追究計画を立てさせ、自分なりの考えを基に見通しをもって追究する喜びを味わわせていきたい。

イ 追究にあたっては、「長野県川上村、南牧村でさかんな産業」「さかんに行われている理由」「さかんにするための工夫や努力」の観点から追究させていく。まず、「さかんに行われている産業」については、統計的な資料を基に、他の都道府県と比較しながら捉えさせていく。次に、「盛んに行われている理由」については、レタスの生育条件と、土地の広さや夏場の冷涼な気候といった自然条件と関連付けさせたり、出荷時期の違う理由について、他の地域の夏場の自然条件と関連付けさせたり、生産にかかる費用と関連付けたりしながら捉えさせていく。さらに、「盛んにするための工夫や努力」については、昔のこの地域の土地の様子と現在の様子とを比較させたり、現在の出荷先の拡充に着目させたりしながら捉えさせていく。

ウ 追究してきてきたことを基に、長野県川上村や南牧村の自然の特色と人々のくらしの様子について新聞にまとめさせる。その際、国民生活との関連について考えさせるために、この地域におけるレタス生産が、自分たち国民の食生活に果たす役割について、自分の考えを書かせるようにする。

3 目 標

- (1) 高い土地である長野県川上村や南牧村の地形をはじめとする自然条件や人々のくらしに関心を持ち、意欲的に追究しようとすることができる。
- (2) 高い土地である長野県川上村や南牧村の地形をはじめとする自然条件や人々のくらしについて、他の地域と比較しながら自然条件の特色を考えたり、夏場のレタス生産について自然条件や夏場の生産のメリットと関連付けて考えたりするとともに、その特色について説明することができる。
- (3) 高い土地である長野県川上村や南牧村の地形をはじめとする自然条件や人々のくらしについて表やグラフ、写真などの資料を活用して必要な情報を集めるとともに、調べたことをまとめることができる。
- 高い土地である長野県川上村や南牧村に住む人々は、広い土地を開墾し、夏でも涼しい気候を生かして、他の地域では生産することができない夏場に多くのレタスを安く生産し、出荷していることを捉えることができる。

4 指導計画(全6時間)

学習過程	主な学習活動	子どもの思考の流れ	教師の具体的な働きかけ
つかむ・立てる	1 長野県川上村の土地の様子や土地利用の様子を基に、学習問題を設定する。 大浪の池と同じくらい高い場所にある、長野県川上村や南牧村の産業には、どのような特色があるのだろうか。	川上村は長野県にあるね。 山が多いから、高いところにある村だよ。	㊤ 地図(長野県、霧島付近) ㊤ 写真(川上村、南牧村/霧島) ㊤ グラフ(川上村、東京の平均気温) ○ 長野県川上村や南牧村の自然や産業の様子に関心をもたせるために、土地の高さや土地の使われ方に着目して資料を読み取らせ、霧島の地形や霧島のまちづくりの特色について学習した内容と比較させて生じた疑問を話し合わせる。
	2 互いの疑問や関心を基に、調べる内容や方法を話し合い、追究の計画を立てる。 [調べる内容：追究の柱] ○ 盛んな産業とその理由 ○ 産業を盛んにするための工夫	ここも、霧島のように、自然に特色がある地域のようなね。 でも、広くて平らな土地が広がっているように見えるよ。	○ 長野県川上村や南牧村の自然や産業の様子に関心をもたせるために、土地の高さや土地の使われ方に着目して資料を読み取らせ、霧島の地形や霧島のまちづくりの特色について学習した内容と比較させて生じた疑問を話し合わせる。
調べる	3 長野県川上村や南牧村で盛んな産業とその理由を、自然条件から話し合う。 生産が盛んな農産物 ・ レタス ・ 白菜 ・ ブロッコリー 自然条件 ・ 広い土地 ・ 夏場の涼しさ 各農産物の生育条件 ・ 発芽や生育の適温 ・ 十分な日光 夏場の自然に合った作物	一面が緑色をしているから、畑が多い土地だね。 霧島とは違う特色がありそうだね。どんな農業が盛んなのかな。 川上見らや南牧村では、どんな農産物を作っているのかな。	㊤ 表(川上村、南牧村で生産が盛んな農産物、各農産物の生育条件) ㊤ グラフ(川上村付近の気温、降水量) ○ 川上村や南牧村では、土地の高さや広さを生かした農業が行われていることを捉えさせるために、主な農産物を調べさせ、その生育条件と自然条件を関連付けて話し合わせる。
	4 夏場のレタスの生産がさかんな理由を話し合う。(本時) 【川上村や南牧村(長野県)】 ・ 冷涼な気候 → 夏でも安く作ることができる。 大都市への近さ 【坂東市(茨城県)】 ・ 夏の暑さ → 夏は作りにくく、作するためには費用がかかる。 他地域では作れない時期に安く作れ、早く運べる。	レタスや白菜などの葉野菜を多く作っているよ。 この土地に合った作物なんだね。でも、なんでこんなに多く作るのかな。 この土地に合った作物なんだね。でも、なんでこんなに多く作るのかな。 他の地域とは違う時期に作って出荷しているよ。 ほかの地域で作れない分、高く売れるからなんだね。 他地域では作れない時期でも作りやすく、色々な場所に売ることができるからね。そんなレタスをどうやって作っているのかな。	㊤ グラフ(東京の市場で夏場に取引されるレタスの生産地) ㊤ 地図(レタスの主な出荷先) ○ 夏場のレタス生産が盛んな理由について、自然条件に着目して、茨城県坂東市と比較させ、違いを捉えさせる。また、違いの良さを生産費用と関連付けさせる。さらに、大都市との位置関係に着目させ、夏場でも生産している群馬県や北海道と比較させて違いのよさを話し合わせる。
まとめる・広げる	5 レタス作りを盛んにするための工夫や努力について話し合う。 【昔】 ・ 土地の開墾 ・ 土壌の改良 【今】 ・ 低温輸送 ・ 出荷先の拡大 生産や出荷先を増やす工夫や努力	もともとは作りにくい土地を力を合わせて耕したんだね。 今も新鮮さを保って運ぶ工夫や販売先を増やす努力をしているね。 人々が、多く作ったり、多く売ったりするための努力を続けているんだね。 土地の高さや広さから、もともとレタスを作りやすい土地であったことや、他の地域では作りにくい時期があることに加え、多く作るための工夫や努力を人々がしてきたから盛んなんだね。 このような地域があるからこそ、夏場でも私たちはレタスが食べられるんだね。	㊤ 写真(昔の川上村付近の荒れた土地の様子、開墾や土壌改良の様子、低温輸送車) ㊤ 表(川上村付近の昔の土壌成分、レタスの生育に必要な土壌成分) ○ 長野県川上村や南牧村の人々が生産を高める工夫や努力を続けてきたことを捉えさせるために、土地の様子を昔と今で比較させ、違いとその理由を話し合わせる。
	6 調べ、話し合ったことを基にこれまでの学習をまとめる。 高い土地である長野県川上村や南牧村は、夏でも涼しい気候と広い土地を生かして、他の地域では生産できない夏場に多くのレタスを生産し、様々な都市に出荷しているという農業の特色がある。	このように地域があるからこそ、夏場でも私たちはレタスが食べられるんだね。	○ 追究してきてきたことを基に学習問題に対するまとめを話し合わせるとともに、明らかになった自然の特色と産業の工夫を新聞にまとめさせる。その際、自分たちの生活との関連を考えさせるために、この地域の夏場のレタス生産が、国民の食生活に果たす役割に関する自分なりの考えを書かせる。
	7 追究してきてきたことを新聞にまとめ、交流し合う。		

5 本 時（3／6）

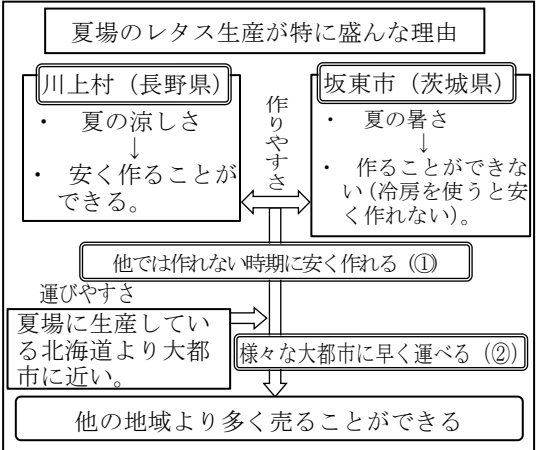
（1）目 標

長野県川上村や南牧村で夏場のレタスの生産が特に盛んな理由について、資料を活用しながら位置関係や自然条件に着目し、他地域と比較して見いだされた事実を関連付けて意欲的に話し合う活動を通して、他の地域で生産しにくい夏場でも安く生産でき、また、大都市に運びやすい位置にあることで、他の地域に比べ有利に販売できることを捉えることができる。

（2）本時の展開にあたって

本時の展開にあたっては、夏場のレタスの生産が特にさかんな理由について、自然条件に着目して他地域と比較し、生産費用と関連付けて考えたりする力を発揮させるために、東京市場で取引されるレタスの産地に関する資料や、春や秋にレタスの生産が盛んな茨城県の雨温図、ビニルハウスの冷房にかかる費用といった資料を提示し、気づきを基に話し合わせる。

（3）実 際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
具体化問題の	1 本時における追究問題を確認し、具体化する。 長野県川上村や南牧村の人々は、夏場になぜ、多くのレタスを生産しているのだろうか。	(分) ↑	㊟ グラフ（長野県におけるレタスの月別出荷量） ○ 追究問題を焦点化するために、時期による出荷量を比較させ、その違いから気づきや疑問を話し合わせる。
追究計画	2 予想を基に、追究の視点と方法について話し合う。 ＜予想＞ ・他の地域では作れない ・都会に近いから ＜追究の視点＞ →自然条件の違い →大都市との位置関係	8	○ 追究の視点をもたせるために、追究問題に対する予想を話し合わせる。また、調べた事実同士を基にどのように考えていくかを問い、追究方法の見通しをもたせる。
追究問題の究明	3 長野県川上村や南牧村で夏場のレタスの生産が盛んな理由を話し合う。 (1) 自然条件に着目し、費用と関連付けて話し合う。 (2) 他の生産地との地理的位置の違いに着目して話し合う。 	30	㊟ グラフ（東京市場で取引されるレタスの産地） ㊟ 雨温図（川上村や南牧村、茨城県坂東市） ㊟ 表（レタスの生育条件、ビニルハウス冷却にかかる費用） ○ 他の地域では、夏場にレタスを生産しにくいことを捉えさせるために、まず、東京市場で取引されるレタスの産地のグラフから、時期による産地の違いを捉えさせる。次に、その中から秋や春の時期に出荷量が多い茨城県坂東市の自然条件とレタスの生育条件とを関連付けて話し合わせる。さらに、仮に茨城県坂東市で夏場に生産する場合の問題点について、ビニルハウスの冷却にかかる費用と関連付けて話し合わせる（①）。
まとめ	4 本時の学習についてまとめる 他の地域では作れない夏でも安く作ることや、大都市に早く運ぶことができ、他の地域に比べてたくさん売ることができるというよさがあるから。 5 本時の追究を振り返る。 生産の条件とその土地の自然の関係に着目したり、作るよさに着目したりすると、生産がさかんな理由が分かるな。	7	㊟ 地図（レタスの主な生産地と長野県産の送り先） ○ 様々な都市に近いことで、レタスを早く、新鮮に運べるという長野県川上村や南牧村の立地のよさをとらえさせるために、「涼しくて広い土地なら、北海道産のレタスがもっとたくさん東京の市場で取引されてもいいのではないか。」と問い、距離の違いを話し合わせる（②）。 ○ 本時で用いた見方・考え方の価値を捉えさせるために、本時の追究の過程について、視点や方法を振り返らせる。